

## 閉会中の委員会活動

令和7年度は経済委員会・県立アリーナ整備等に関わる特別委員会に所属しており、下記のテーマのもとに調査研究を行いました。

### 経済委員会

**テーマ** 中小企業の持続的な経営発展に向けた支援について  
高松空港を核とした地域経済の活性化について  
資源循環型農業の推進について

#### 経済委員会県内視察（令和7年6月4日）

##### ●高松空港を核とした地域経済の活性化

【視察先：高松空港株式会社】

高松空港は滑走路2,500m×60m、計器着陸装置（ILS CAT I）を備え、国内線は1日16～17往復、国際線は週37往復運航しています。

令和6年度の利用者数は\*\*約211万人（前年比115.7%）\*\*と過去最高を記録。

特に国際線は前年比190%と大幅に伸び、国際線乗降客数は全国10位となっています。

現在、国際線エリアのリニューアル工事が進められており、令和9年春のグランドオープンを予定。完成後は同時時間帯に3便の受入れが可能となり、更なるインバウンド拡大が期待されています。外国人旅客による県内経済波及効果は\*\*210億円（平成29年比約2.8倍）\*\*に達しており、空港が地域経済の重要な成長エンジンとなっていることを実感しました。



高松空港



赤松牧場



事業承継の説明

##### ●資源循環型農業の推進

【視察先：(有)赤松牧場（高松市香南町）】

経産牛280頭、未経産牛280頭を飼養する大規模酪農経営。糞尿を活用した高品質堆肥を製造し、近隣農家へ販売する循環型農業を実践しています。子牛から自家育成することで健康管理を徹底し、高品質な生乳生産を実現しており、畜産と耕種農家の連携による地域内循環の重要性を学びました。

##### ●高松港複合一貫輸送ターミナル 直轄港湾改修事業

【視察先：マスモト興業(有)】

事業承継の事例として説明を受けました。

香川県事業承継・引継ぎ支援センターの支援を受け、第三者承継により現代表へ事業譲渡。承継後は雇用を維持しながら新規事業（外構・伐採請負）にも着手し、事業拡大を図っています。支援センター（高松商工会議所1階）は12名体制で、事業承継計画策定支援や後継者マッチング、専門家連携など総合的な支援を行っています。円滑な事業承継は地域経済の持続性に直結する重要施策であると改めて認識しました。

#### 経済委員会県内視察（令和7年11月5日）

##### ●BCPに取り組む中小企業

【視察先：(株)北四国グラビア印刷】

食品・衛生用品等のパッケージを一貫製造。「香川県中小企業BCP優良取組事業所」に認定されている。

主な取組としては、災害時優先稼働設備のリスト化や県外同業他社との相互製造委託契約、緊急倉庫確保や地域避難所支援（発電機貸出・敷地提供）になります。企業のBCP対策が、地域防災力向上にも寄与している点が印象的でした。



BCPに取り組む企業

##### ●地域と未来を耕す資源循環型農業の推進

【視察先：(株)中大】

消費者視点に立った栽培と品質管理で、持続可能な農業経営を実践している。定期的な土壌分析に加え、地元畜産農家の堆肥を活用した土づくりや、有機質100%のペレット肥料の使用など、資源循環型農業を推進し、高品質な農産物の安定生産に取り組んでいる。

また、協同組合を設立し、若手農業者の技術向上や勉強会の開催を通じて担い手育成を強化。県外からの就農希望者も受け入れ、独立後も技術・経営の両面で支援するなど、地域農業の持続的発展に貢献している。



(株)中大

# 県政報告（令和8年春号）

## ふるさと香川の創生

香川県議会議員 自由民主党香川県政会

# うえじょう 敬介



Facebook

事務所連絡先 坂出市林田町3098-1  
電話 090-7788-6910  
E-mail ksk1230ksk@gmail.com



## ごあいさつ

皆様方におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

令和8年度を迎えるにあたり、昨年を振り返りますと、中四国最大規模となる県立アリーナの開館により、これまでに60万人を超える皆様にご来場いただきました。また、瀬戸内国際芸術祭2025の開催では108万人余りの方々が本県を訪れ、世界的な芸術祭として大きなにぎわいを創出し、本県にとって新たな飛躍の節目となる一年となりました。一方で、本県経済は設備投資が伸びているものの、県民や事業者の皆様が本格的な景気回復を実感するまでには至っていない状況にあると感じております。

こうした現状を踏まえ、国の総合経済対策に呼応し、昨年末には301億円の補正予算を議決いたしました。令和8年度当初予算においては、令和7年度に引き続き「未来への投資枠」を設け、本県が将来にわたって持続的に発展していくため、24年ぶりに5千億円台となる総額5,221億円の予算規模となりました。

本県の人口は長期的に減少傾向にあり、とりわけ15歳から24歳までの若年層人口の減少が顕著です。進学や就職を機に県外へ転出する若者が多く、若年層の転出超過は年々増加しています。この状況を打開しなければ、本県の持続的な発展を支える活力が失われかねません。そのため、子育て県としての魅力を一層高め、「かがわで暮らしたい」「出会い・結婚したい」「子どもを生み育てたい」と実感できる環境づくりを着実に進めてまいります。また教育の充実、安心できる医療体制の確保、災害に強い県土づくりなど、魅力ある香川づくりを引き続き推進してまいります。

令和8年度は、こうした課題解決に向け、各分野における人手不足の解消、頻発する自然災害への備え、市町と連携した地域活力の向上、企業誘致の推進や新たな産業の創出など、さまざまな施策に全力で取り組んでまいります。

今後も多くの皆様の声丁寧にお伺いしながら、希望に満ちた「ふるさと香川」の創生実現に向け、全力で邁進してまいります。引き続き、皆様方のご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 令和7年の主な委員会質問

### 環境建設委員会

令和7年2月定例会

- ・大規模災害への対応について（環境森林部）
- ・流域下水道事業の経営について（土木部）

他2問

### 経済委員会

令和7年6月定例会

- ・スタートアップ創出支援について
- ・水田農業の維持と地域計画に基づく農地の集積・集約化に向けた取り組みについて

他2問

### 経済委員会

令和7年9月定例会

- ・四国新幹線の早期実現に向けた取り組みについて
- ・ほ場整備について

他2問

### 経済委員会

令和7年11月定例会

- ・データセンター等の誘致について
- ・県内における自動運転バスの社会実装に向けた取り組みについて
- ・養殖カキのへい死について

他2問

### 決算行政評価特別委員会

令和7年10月～11月 計7日間

- ・オリブハマチ飼料安定供給事業について
- ・サイバー空間をはじめとするデジタル社会の安全安心の確保について

他8問



ホームページが  
できました。

## 主な一般質問項目

### 令和7年6月 定例会一般質問

令和7年7月2日、6月定例会の一般質問において、『地域医療情報  
関係ネットワークの現状と今後の展望』『音楽文化の振興と若者育成に向けた取組』など5項目について理  
事者側の見解をいただきました。



### 番の州投資加速 港湾計画改訂どう進める

**【坂出港港湾計画改訂と県の主体的関与について】** 番の州地区では、次世代航空燃料や蓄電池原料、発電設備増設など成長分野への大規模投資が進み、坂出港は四国の産業・エネルギー拠点として新たな段階に入っている。今後は物流機能の高度化に加え、カーボンニュートラルポート形成、防災・減災拠点化、高松港との機能分担と広域連携を明確にした港湾計画改訂が不可欠である。地域産業の競争力強化と雇用創出を見据え、県が坂出市とどう戦略的に連携し主体的に関与していくのかを問う。

**【知事答弁】** 坂出港は、県下第1位の外貿取扱量を誇り、エネルギー関連企業の工場や物流施設が集積するなど、県経済を支える重要な港湾です。平成9年の港湾計画改訂以降、部分的な見直しを行ってききましたが、28年が経過し、船舶の大型化やモーダルシフトの進展、カーボンニュートラルポートの形成、坂出北インターチェンジのフルインター化、さぬき浜街道の四車線化など社会環境が大きく変化していることから、将来を見据えた計画の見直しが必要となっています。改訂にあたっては、令和4年に坂出市と策定した長期構想や昨年の港湾脱炭素化推進計画を踏まえ、工業港湾としての特性を生かすとともに、高松港との役割分担と連携を図ります。老朽化した埠頭の再編や新たな貨物に対応する岸壁整備、産業用地の確保などを検討し、背後企業の成長を支える競争力と利便性の高い港を目指します。坂出港の計画・建設は、昭和28年6月の県と坂出市の協定に基づき、管理者である坂出市から県が受託して進めてきました。今回の改訂も県が主体となり、令和9年度の改訂を目指して、坂出市と連携・協力しながら進めてまいります。

### 交通DXで観光競争力強化へ

**【デジタル戦略による公共交通の利便性向上について】** 観光客の増加が続く一方で、交通機関ごとに決済方法やデジタルチケットが分断され、利用者目線では分かりにくい状況がある。県が主導して共通仕様やデータ連携基盤を整備し、鉄道・バス・地域交通を横断する統一的な仕組みを構築すべきである。観光DX戦略との整合を図り、インパウンドの視点による検証も踏まえながら、利便性向上と地域経済への波及効果をどう具体化していくのかを問う。

**【知事答弁】** 県では、かがわデジタル化推進戦略に基づき、交通事業者や市町と連携し、キャッシュレス決済やバスロケーションシステムの導入を促進することで、利用者の利便性向上や乗り継ぎ機能の強化、生産性向上に取り組んでおります。複数の公共交通機関やホテル予約を一括で行えるシステムについても、本戦略の中で先進事例を研究し、交通事業者や市町と情報共有を図りながら県内導入を検討しております。今後も利用者ニーズを踏まえ、検討を進めてまいります。また、市町支援として本年度から地域公共交通アップデート支援事業を創設し、キャッシュレス化やバスロケ導入に取り組む五市一町を採択、既に交付決定を行いました。交通事業者向けにも、キャッシュレス端末やタクシー配車アプリなどの導入補助制度を設け、先月末までに36社から申請をいただいております。今後もデジタル技術を活用し、外国人を含む観光客にとっても利便性の高い公共交通の実現に取り組んでまいります。

### 地域人材育成へ 郷土学習強化を

**【地方創生を見据えたふるさと教育の推進について】** 国が地方創生2.0で郷土学習の充実を掲げる中、郷土の歴史や文化への理解と誇りを育む教育は、地域で活躍する人材育成の土台である。坂出の讃岐国府跡など具体的な地域資源を生かし、主体的な学びと将来の志につなげる取組が重要である。これまでの成果と課題を踏まえ、キャリア教育や地域政策とも連動させながら、ふるさと教育をどのように体系的かつ戦略的に深化させていくのかを問う

**【教育長答弁】** 県教育委員会では、香川県教育基本計画の重点項目に「郷土を愛し、郷土を支える人材の育成」を掲げ、発達段階に応じたふるさと学習の充実を通じて、郷土への愛着や誇りを育み、地域の発展に主体的に関わる意欲や態度の育成を目指してまいりました。小・中学校では地域の人・もの・ことを教材化し、家庭や地域と連携した学習を展開しています。県立高校でも総合的な探究の時間などを通じ、自治体や企業等と連携しながら地域課題に主体的に取り組む活動を進めており、こうした積み重ねが地域への愛着の醸成につながっていると考えております。

一方で、若者の地方離れは依然として進んでいます。地方創生2.0基本構想では、意識改革や魅力ある職場づくりにより、若者や女性が地方に残りたい、戻りたい、行きたいと思える地域づくりが示されています。今後は、地域社会を支える視点を一層重視し、県や市町、企業、大学などが広域的に連携して取り組むことが重要です。施策の検討にあたっては、知事部局とも連携し、具体的な取組を進めてまいります。



## 県立アリーナ整備等に関する特別委員会 (令和7年11月10日～11月12日)

### 県立アリーナをどう活かすか ― 県外先進事例に学ぶ地域活性化 ―

県立アリーナ整備等に関する特別委員会では、「県立アリーナ等を活用した地域活性化」をテーマに県外行政視察を実施しました。今回の視察で共通して感じたのは、施設を“建てること”が目的ではなく、“どう運営し、どう周辺に波及させるか”が成功の鍵であるという点です。

#### ■ エリアマネジメントという発想 (福岡市)

福岡市の「We Love 天神協議会」では、企業・団体・行政が連携し、エリア全体の価値向上に取り組んでいます。部会制を導入し、まちづくり、ホスピタリティ、都市デザインなど分野ごとに議論と実行を重ねています。ハード整備だけでなく、ソフト施策を組み合わせながら戦略的にまちの魅力を高めている点は大変参考になりました。アリーナ整備においても、官民が主体的に参画する運営体制づくりが不可欠であると強く感じました。



#### ■ 福岡クリスマスアドベントの集客力 (株サエキジャパン)

博多駅前や天神エリアで開催される「福岡クリスマスアドベント」は、約2か月弱の開催期間で総来場者1,156万人を記録する大規模イベントです。イルミネーションやコンサート、木製ヒュッテでの飲食・物販などが街全体に展開され、回遊性を高めています。特に、毎年デザインが変わる限定マグカップは来場者の楽しみとなっており、継続的な来訪につながっています。単なるイベントではなく、都市ブランドを形成する戦略的な取り組みであり、本県においてもアリーナと季節イベントを連動させる仕組みづくりが必要であると感じました。



#### ■ アリーナと街をつなぐ導線整備 (佐賀市)

佐賀駅北口からSAGAアリーナまでの1.4キロを「サンライズストリート」と名付け、歩いて楽しい空間へと整備しています。休憩交流スペースを設けることで自然な人の流れを生み出しています。さらに、自動運転バスの導入を目指し、レベル4での運行を計画するなど、未来志向の交通政策と連動させています。アリーナを単体で考えるのではなく、駅からの動線、街なか周遊、公共交通利用促進まで一体的に設計している点は非常に示唆に富むものでした。



#### ■ SAGAアリーナの徹底した顧客目線

SAGAアリーナは最大収容1万人の多目的アリーナで、プロスポーツやコンサートが開催されています。観客席は国内最大級の35度勾配を採用し、女性トイレ164か所設置、ドリンクホルダー100%完備など、来場者満足度を徹底的に追求しています。3階のプレミアムフロアも含め、多様な観戦スタイルに対応できる設計となっており、施設そのものが「選ばれる理由」を備えています。また、佐賀県と佐賀市が密に連携し、アリーナを核とした賑わいづくりを進めている点も印象的でした。ハード整備に加え、行政間の連携体制こそが成功の土台であると感じました。

#### ■ 北九州市「コクラBeat」に学ぶ都市戦略

ナイトスペクトルやクリスマスマーケットなどを組み合わせた「コクラBeat」を展開し、62日間で156万人を動員、経済波及効果は116億円にのぼっています。紫川という地域資源を活かし、光の演出や回遊性向上策を段階的に進めています。DMO協議会や民間団体と連携し、まち全体で賑わいを創出している点が特徴です。これは単発イベントではなく、都市戦略として継続的に進化させている取り組みであり、本県にとっても大いに参考となる事例でした。

#### ■ アリーナを活かしたエリアマネジメント

今回の視察を通じて明確になったのは、アリーナ整備の成否は「運営戦略」と「周辺連携」にかかっているということです。アリーナを中心に、駅からの導線整備や中心市街地との回遊性向上、季節イベントとの連動を進め、官民連携による運営組織の構築等、これらを一体で設計する必要があります。



ハード整備にとどまらず、年間を通じた集客戦略とエリアマネジメント体制の構築を強く求めてまいります。県立アリーナを“施設”で終わらせるのではなく、“地域成長の拠点”として最大限に活かすため、今後も具体的な政策提言を行ってまいります。

### 世界で最も美しいアリーナ2025

香川県立アリーナ（あなぶきアリーナ香川）は、「ベルサイユ賞」の「世界で最も美しいアリーナ2025」にノミネートされた6施設の中から選ばれ、令和7年12月4日（フランス・パリ現地時間）、ユネスコ本部で開催された表彰式において最優秀賞であるベルサイユ賞を受賞しました。

瀬戸内の島々を想起させる外観は周囲の自然景観と調和し、高い評価を受けました。日本で最も小さな県である香川県ですが、「世界の宝石」と称される瀬戸内海の美しさとともに、自然・歴史・文化・アートの魅力を体現する象徴的な施設として、世界に認められました。

